

清盛・姫王ゆかりの 祇王井川散策絵図

平家物語と祇王

『平家物語』は、平家一門の栄華と没落を描いた軍記物語で、鎌倉時代に成立したといわれます。この巻第一に「祇王」の段があり、白拍子祇王(姫王)の悲劇の物語を綴っています。

都で評判の白拍子(舞姫)に祇王・祇女という姉妹がおり、祇王は平清盛の寵愛をうけ、豊かな暮らしをしていました。それから三年後、若き白拍子の名手、佛御前が清盛邸へ参ったところ、清盛が帰したのを祇王のとりなしで召し返します。その舞を見た清盛は、佛御前に心が移ってしまいます。清盛から退出を命じられた祇王は、

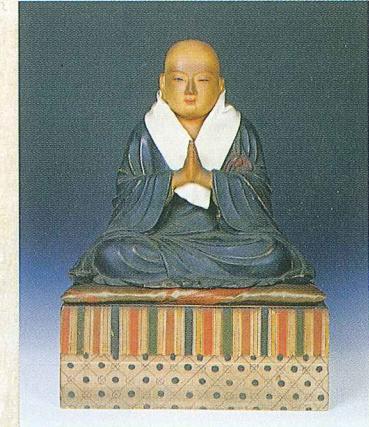
萌え出づるも枯るるも同じ野辺の草
いづれか秋にあはではつべき

の歌一首を泣く泣く書き残し、清盛のもとを去ります。

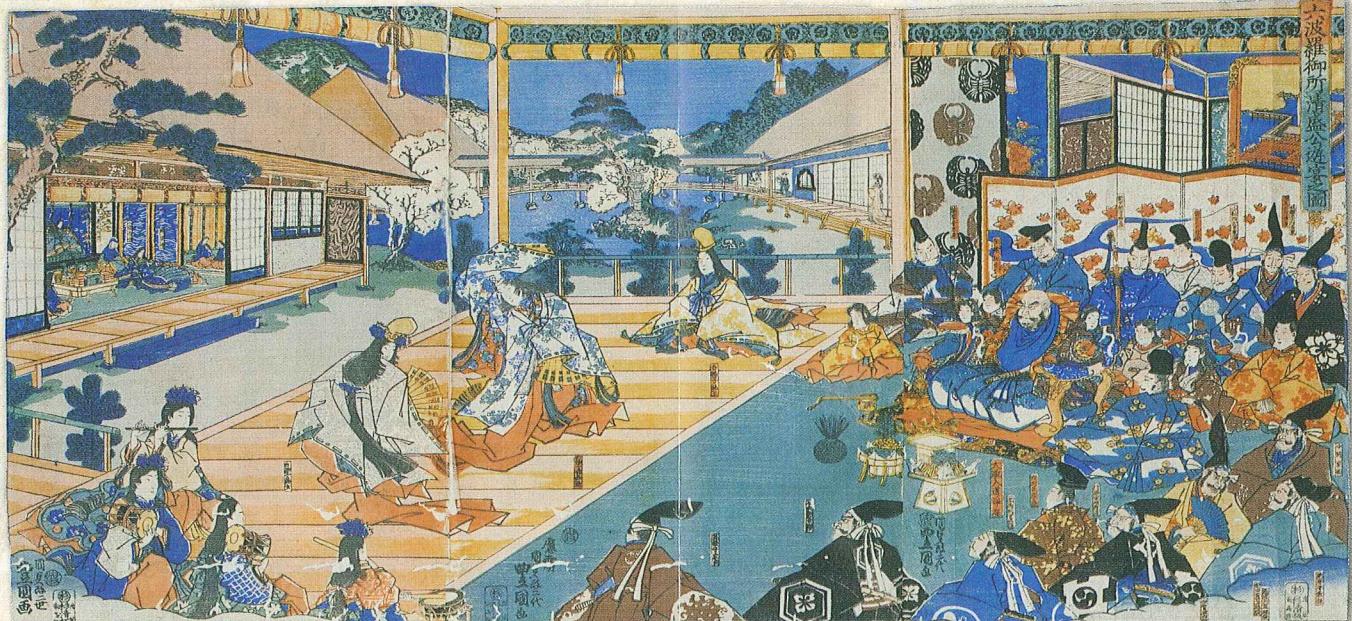
その後、祇王は、妹の祇女、母刀自とともに出家し、嵯峨野に庵を結び仏門に入りました。やがて、佛御前も後を追って尼となり、四人は一緒に仏道に励み、往生を遂げたというお話です。

野洲には、この一話とともに祇王井川の伝説が伝えられ、姫王寺に伝わる安永5年(1776)の「姫王寺略縁起」などに記されています。

祇王は、近江国野洲郡江辺荘(現在の野洲市永原・中北・北付近)に生まれ、京に上り白拍子となり、平清盛の寵愛をうけました。故郷の村人が水不足に苦しんでいたのを思い、祇王が清盛に願い出て開かれた用水が「祇王井川」であるといいます。出家後、祇王は仏門にいそしみ、38歳で生涯を閉じますが、その恩恵をたたえて建立された寺は「姫王寺」と名づけられました。



姫王像（姫王寺）



浮世絵「六波羅御所清盛公遊宴之図」(姫王寺)

妓王寺

村人が祇王の遺徳を偲び、菩提を弔うために建立したと伝えられ、現在の堂は江戸時代、17世紀に再建されています。江辺荘のほぼ中央、中北の集落にある浄土宗の尼寺で、本尊阿弥陀如来坐像、両脇に妓王・妓女、刀自(閉)・ほけ御前(ぜん)の像を安置しています。境内には石造の供養塔がまつられています。



妓王寺 中北

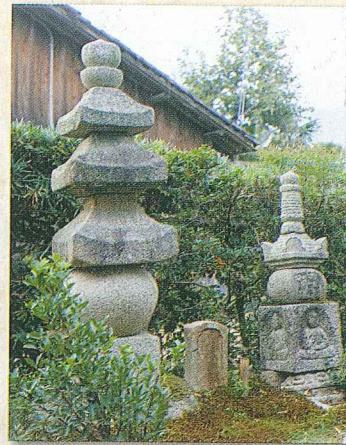
伝妓王屋敷跡・妓王碑
中北

妓王寺の北約二百m、中北と北の集落の間に、妓王屋敷跡と伝えられる所があります。「妓王碑」は大正六年(一九一七)に建立され、妓王や妓王寺、祇王井川の来歴などを記しています。



「祇王井にとけてや民もやすこほり」

野洲郡北村(現・野洲市北)出身の俳人、歌人、国文學者として知られる北村季吟(きたむらきいん・一六二四~一七〇五)の句碑。昭和三十年(一九五五)、季吟の二百五十回忌供養に建立されました。祇王井川に溶け込むように慣れ親しんでいる人々のことが想い起こされます。



境内の供養塔



土安神社 永原(江部)

伝説によると、水路を掘ろうとするが流路を決められずにいたところ、童子が現れ「予が引く縄にしたがって川溝を付けよ」といい、野洲川から琵琶湖野田浦まで縄印を引き渡して去りました。こうして一日一夜のうちに成就したのが祇王井川であるといいます。西祇井川は「童子川」に合流し、土安神社には童子がまつられています。

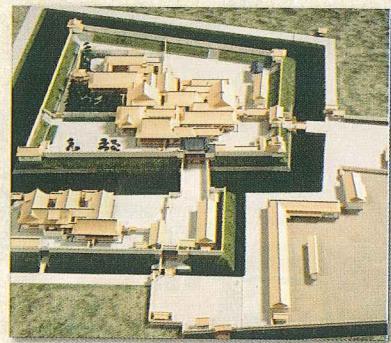
菅原神社 永原(江部)

旧江辺荘の氏神で、永原天神と呼ばれます。神門は室町時代の建築で、滋賀県指定有形文化財です。中世以来文学が盛んで、連歌が度々興行されました。境内には北村季吟の歌碑があります。



永原御殿跡 永原(江部)

江戸時代初期、將軍上洛時の宿泊施設として整備された城郭で、徳川家康・秀忠・家光の三代にわたり用いられました。建物は残っていませんが、堀や土塁、石垣がその面影をとどめています。



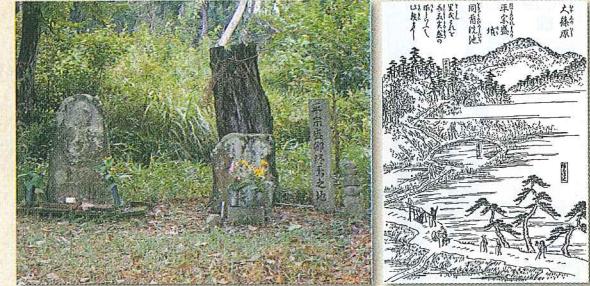
[写真は博物館の復元模型]



祇王井川の流路

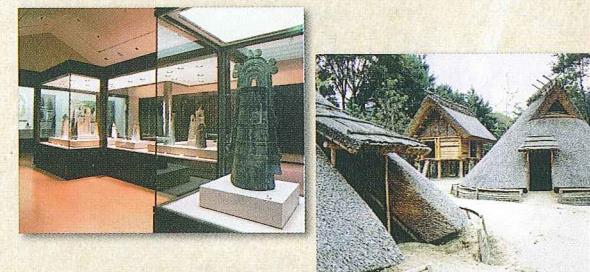
平家終焉之地 大篠原

壇ノ浦の戦に敗れた平宗盛は、鎌倉へ下り源頼朝と対面した後、源義経に連れられ京へ上ります。途中、篠原で斬首され、首は京へ帰り、胴はこの地に葬られたと伝えています。かつて宗盛胴塚の前に首洗池があり、その前の「蛙不鳴池(かわづなかずのいけ)」には、無念が通じたのか、蛙が鳴かなかったといいます。



銅鐸博物館(野洲市歴史民俗博物館) 弥生の森歴史公園

野洲市大岩山から出土した弥生時代の銅鐸を中心に、「銅鐸の謎」や「野洲の歴史と民俗」を紹介しています。隣接する弥生の森歴史公園には、竪穴住居や高床倉庫を復元し、また玉作りなどの体験学習も楽しめます。古代のバス「大賀バス」は6月下旬～7月下旬頃に開花。

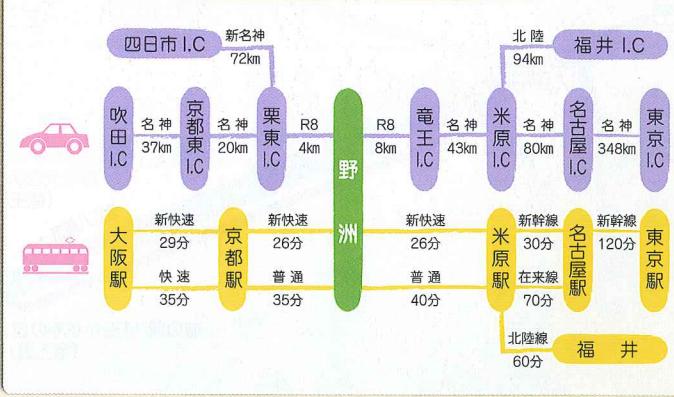


滋賀県野洲市辻町 57-1
Tel 077-587-4410 · Fax 077-587-4413
開館時間／9:00～17:00（入館は 16:30 まで）
休館日／月曜日・祝日の翌日（土・日曜日、祝日は開館）
12/28～1/4
入館料／有料

位置图



野洲までの交通アクセス



観光・物産情報に関するお問合せ先

野洲市觀光物產協會（商工觀光課內）

開所時間 8:30～17:15

定休日・日曜日・祝日・年末年始

Tel 077-587-3710 Fax 077-587-3835

[ホームページ](#) [野洲市観光物産協会](#) [検索](#)

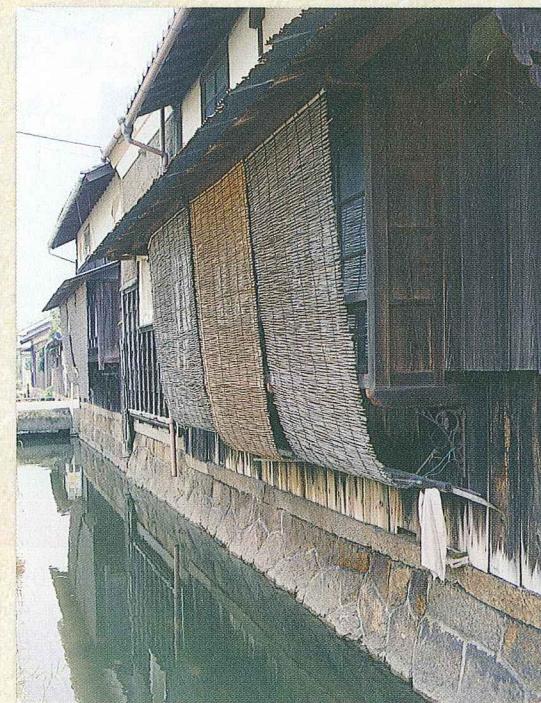
www.english-test.net

発行 / 滋賀県野洲市観光物産協会
〒520-2395 滋賀県野洲市小篠原 2100-1
※ 施設情報は 2012 年 8 月現在です 2012.8 - 7000.24

祇王井川

祇王井川は、野洲川を水源とする三里、約12kmの古くからの用水です。用水のことを「ユ」または「イ」といい、祇王井川は「大井」とも呼ばれます。野洲川の三上地先に始まり、富波乙の生和神社裏で東西に分かれます。東祇王井川は、富波甲の町並みの東裏手を通り、永原へと流れています。西祇王井川は、中之池川と一緒になり、童子川に合流します。そして家棟川に合流し、琵琶湖野田浦へ注いでいます。

祇王井川の水利にかかる村々は、江辺荘三か村の永原(上町・下町・江部)・中北・北のほか、四ツ家(野洲の内)・行合(行畠の内)・市三宅・久野部・五之里・澤(富波乙)・新町(富波甲)の七か村を加えた十か村です。長い歴史を伝える用水であり、その流れは今も大切に守り続けられています。



祇王井川 永原(下町)



「史蹟妓王井川」碑

みつかっています。

付近から「領境大井川床限」の石柱も

大井の参会 3月15日(現在は直近の日曜日等)

祇王井川開削の日と伝えられる日に、野洲川取水口で法要が営されます。水源地跡に祇王井川(大井)十か村の自治会長が参集し、妓王寺住職が読経を勤めます。



井のぼり 4月上旬

ユノボリ・イノボ
リといい、永原・中北・
北の三大字の人々が、
祇王井川の見回りや
川浚えをする行事で、
春先の田植え前に行
われます。



